

# 民主化闘争情報

No. 826  
2011年6月9日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

4月に九州地区本部で2名、5月に東海地区本部で1名の組織拡大を果たした貨物鉄産労が、6月に入って、再び九州地区本部で2名の青年の加入を勝ちとった。貨物鉄産労の組織拡大の勢いは止まるところを知らない。

## 貨物鉄産労に日貨労から2名の青年が加入! —「貨物改革」とはJR連合・貨物鉄産労に加入することだ!—

貨物鉄産労は、新年度に入って、4月に九州地区本部で日貨労から21歳と28歳の青年の加入を勝ちとるとともに、5月には東海地区本部で日貨労から38歳の運転士の組織拡大を果たしている。

今回、日貨労と決別し、貨物鉄産労に加入したのは小倉車両所に勤務する21歳と22歳の青年だ。二人は加入の理由として、「車両所を守ることができるのは貨物鉄産労しかない」としていることから明らかなように、貨物鉄産労九州地区本部は、ダイヤ改正や年度末事案などに対して、車両所の将来展望を明らかにさせることや、新規業務などに関する職場の要求実現にむけ真摯に取り組んでいる。職場の青年達は、これらの課題に対してなにも取り組もうとしない日貨労との違いをしっかりと見抜いていたということである。全国の日貨労組合員の中には、このような青年が多数いるはずである。そのような青年達を見つけ出し、積極的に働きかけることこそが組織拡大につながるのである。

JR連合は、この間、鉄道・運輸機構の特例業務勘定における利益剰余金の取り扱いについて、JR連合国会議員懇談会と連携し、国土交通省および財務省の大臣をはじめとする政務三役への要請などに取り組むとともに、民主党国会議員を対象とする署名行動などを展開してきた。6月8日の参議院本会議における「国鉄清算事業団債務等処理法改正案」の成立は、こうしたJR連合の取り組みの賜であり、引き続き、本年度末に期限切れを迎えるJR三島・貨物会社に対する税制特例措置などの延長・恒久化にむけ全力で取り組んでいくことにしている。

## 結成以降、続々と加入が続く日本フレートライナーユニオン!

JR総連・JR貨物労連傘下の日本フレートライナー労働組合から脱退した組合員51名で結成した日本フレートライナーユニオン（FLユニオン）は、5月20日の結成大会以降、続々と新たな仲間を迎え入れ、現在63名の組合員を擁するに至っている。FLユニオンへの加入の流れは止むことなく、引き続き、組織拡大に全力を挙げることにしている。

FLユニオンは、綱領で「労使対等の立場に立った協議に基づき、相互理解による信頼関係の維持強化を図り、常に新しい時代に即応した創造的活動を通じてJR貨物グループ発展の基盤づくりに努める」と謳っているように、社員が安心して働ける職場・会社を創ることを目的として結成された。良識ある社員の加入が続くことは必至である。

